

設 立 趣 旨 書

現代社会は、多くの人が様々な精神的なストレスを受け、誰もがそれに立ち向かっていかなければならない社会と言えます。また、超高齢化社会を迎え、人口の減少や核家族化などにより人々が孤立している時代、誰かに頼ることが難しくなっています。避けることが出来ないストレスや孤立をどう乗り越えていくかは、地域社会にとって大きな課題であり、課題解決に向けては、行政活動のみに頼るのではなく、市民の力も発揮できる場面があり、そのような市民の力を結集した取り組みが、人々が生きやすい地域をつくる源になるでしょう。

これらの課題に対応するためには、地域ぐるみで安心できる体制を整えることが必要となります。その地域づくりの第一歩として、いつでも気軽に集える場、心配事を相談できる場が、行政ではなく市民が運営する団体で、身近にあることが重要です。地域における市民団体の核が大きくなって、人々の様々なストレス、孤独に手を差し伸べることが求められています。

このような背景を受けて、わたしたちは、以下の2つの取り組みを行うことを考えました。

一つは、ストレスや社会のひずみにより、心の病気や生きづらさを感じている方たちが、早期にリカバリーできる仕組みを地域に作ることにあります。英国ではメンタルヘルスの国策として行われている、リカバリーカレッジの手法を地域の中で展開します。リカバリーカレッジとは、心の病気や生きづらさなど、心の健康に対して困難さを経験した方を対象に、「心が元気になる方法を発掘するために共に学び合う」ための講座などを実施するものです。具体的には「心の病気を持つ当事者による経験者としての語り」や「元気を回復するプログラム」などの実践により、「心の病気などがあっても充実した人生を送ることができる」ことを体現していきます。

もう一つの取り組みは、自分が死んだあと、障害を持つ残された子供はどうなってしまうのだろうかという、親亡き後問題への取り組みです。障害をもつ子供の将来を誰にどうやって支援してもらうか、一人で生きていくために、地域社会での支援が絶対に必要な場面です。この役割を担うのは成年後見人となりますが、障害者への支援をするための人材は、若さと知識が必要で、そういう適任者を探すのに苦労します。この課題を解決するのが法人後見であり、マンツーマンの後見ではなく、法人という様々な知識を持った職員集団が、その障害者に関わって支援することで適切な後見が出来るようになります。

このように私たちは、横須賀の地域で、今後リカバリーカレッジと法人後見を二本の柱として展開することにより、地域のストレスと孤立に対応していきます。ここに集まる様々な経験と知識をもつ者たちが核となって、さらに賛同者を増やししながら、地域の不特定かつ多数の市民が気軽に参加し、自らの課題を克服できる仕組みをつくり上げます。

そのためには、任意団体や他の法人格ではなく、特定非営利活動法人のもつ非営利性が、市民をはじめとした地域の信頼を得ることができ、地域に密着した市民の力による組織づくりの発展が望めることから、NPO法人あかりの設立を決意しました。

令和6年2月5日

法人の名称 NPO 法人 あかり
設立代表者 森田 佳重